

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2024～2025 年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「奉仕の実践を通じ、求められ、

必要とされるロータリアンに」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：大藪 太

副会長：土屋 敏幸

幹事：後藤 政之

会報：北原 慎

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL <0575>24-7332 FAX<0575>23-5278

前例会の記録 第 2173 回

2025年 4月 17日 (木)

C.A 地区研修・協議会報告

場 所 関観光ホテル (例会場)

担 当 次期会長・幹事

本日のプログラム 第 2174 回例会 2025年 4月 24日 (木)

卓 話 岐阜新聞社 中濃総局長 野中 準二 様

テーマ 新聞記事に学ぶ文章の書き方

担当：国際青少年交換委員会

*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

*会長あいさつ 大藪 太 会長

皆さんこんばんは。本日のプログラムはクラブアッセンブリー 地区研修・協議会の報告です。発表される皆さん、よろしくお願いいたします。当日は関シティターミナルに集合し、マイクバスに乗り合わせ、午前 10 時に出発しました。行き帰りとも森次期幹事に運転を担当していただきました、森さんお疲れ様でした。途中、東名阪自動車道が工事中で通れない区間があり、1 度



インターチェンジを出て、同じインターで逆方向に入り直すというイレギュラーな行動にも、的確な運転で対処していただきました。開会式ぎりぎりかなと思いましたが、午前 11 時頃会場の柿安シティホールに着き、昼食も無事に取れてほっとしました。また、昨日 4 月 16 日、関市役所に於いて関市民花火大会第 1 回実行委員会が開催されました。今年の開催は 8 月 13 日(水)、予備日として 8 月 16 日(土)が予定されており、時間は午後 7 時 30 分から 8 時 20 分までの 50 分間です。観覧場所として津保川右岸の松浦グラウンド西駐

車場が新設されます。4月13日(日)には大阪・関西万博が開幕しました。開催までには、建設費の高騰や海外パビリオンの遅れなど、様々な問題が指摘され、賛否両論がありました。開幕日には、雨天にもかかわらず多くの来場者が訪れ、賑わいを見せました。しかし、一部パビリオンでは準備が間に合わず、入場制限や展示内容の変更などが発生しました。事前の報道では、国民の関心が低いという指摘もありましたが、開幕後の報道では、会場の様子や展示内容に関心が集まっている様子も見られます。1970年に行われた大阪万博の熱狂も知っている身としては、1度行ってみたい気がします。特に一週2kmに及ぶ大屋根リングは一見の価値があるように思います。「2億円のトイレとか、350億円の日除けとか、4000円の焼きそば」に象徴される意図的なネガティブ報道もありますが、もう始まってしまったものは応援するしかなく、綺麗な木造屋根でも見に行くか位のノリで行けば良いのではないのでしょうか。ただ、万博IDの登録とか、チケットの事前購入だとか面倒なことが多そうなので、その点が少し心配です。

*C.A 地区研修・協議会報告

◎大藪 太 次期会員基盤増強維持委員長

会員基盤強化分科会

午後1時に点鐘があり、開会セッション、第一セッションに続き、第二セッションでは各分科会に分かれました。私は次期会員増強委員長として、会員基盤強化委員会に出席しました。分科会で渡された資料の中に、クラブ年齢推移表が入っていましたので、平均年齢のデータをひとつ紹介させていただきますと、第2630地区73クラブの中で一番平均年齢が高いのが、伊勢度会 RC 70.2歳、次が岐阜西 RC 69.1歳、一番若いのが岐阜東南 RC 52.2歳、次が各務原 RC 53.2歳でした。ちなみに関中央 RC は 65.0歳です。2630地区会員増強委員長は、可児 RC の亀井和彦さん、入会8年目の方です。その話の中で、会員増強も変わっていかねばならない、これから



人口が減少していく、会社も減っていく、そのような中で会員増強をしていくためには、何かを変えていかなければいけない。亀井委員長の考えは、増やすことよりもいかに減らさないかが大事であるということした。いかに結束を固めて個々が成長していくことが大切である。ロータリーがしっかり活動していれば、地域の人が共感して一緒にやろうという人が出てくるだろうから、そういった人を確実に仲間にするのが大切だといわれました。2630地区会員増強のテーマは「銀河鉄道2630」とし、私たちはロータリーといった宇宙船に乗ったかけがえのない仲間である。時には議論をぶつけ合い、時には毛嫌いし、時には一緒に語り合い、時には助け合う。好きとか嫌いを乗り越えたロータリーの目的で繋がった仲間であるということです。フェロシップという言葉があります。ロータリーはフレンドシップではなく、同じ目的を持った仲間なのでフェロシップである。同じ山を登るにもいろんな登り方が出来る、歩いて登る人がいれば、ヘリコプターで登る人もいる、最終的に同じところへ到達できれば良いので、好きとか嫌いは関係ないはずであり、あいつがいるからロータリーに居たくないなどという次元の低い話は無しにしたいという考えです。会員数の傾向は6月頃から増えていき、11月から2月頃にかけて最も増えて、最後期末に減っていくという傾向があります。2630地区は2023年度、3049人からスタートして、終わりが3216人、167人増えています。2024年度は3087人からスタートしましたが、毎年だいたい期末に100名ほどが減ってしまう傾向があり、これをいかに防止するかがポイントになります。亀井ガバナーの話では、日本の34地区の中で会員数が7番目から5番目になったそうです。3月4日現在では3171人であり、これをいかに延ばすかが大切であり、亀井委員長が目指しているのはプラス129人、つまり3300人を目標にしています。そうすれば100人減っても3200人はキープできるという考えです。129人増やすには30人で1人入れれば達成できる数字で、理論的には1クラブで1人増やせばOK

ということです。世界では今現在 1,134,303 人の会員がいます。一時期 120 万人と書いていたが、とうに減ってしまって、そのうちローターアクトを入れて 140 万人と書いていたが、実際はローターアクトを入れても 140 万人いません。毎年 2 万人減のペースで減っています。ロータリーに入会する理由は、意義ある友情を養う、地域のために奉仕する、職業的な繋がりを築く、この 3 つを目的がありますので、新入会員に対してはこの 3 つを養っていけるようなフォローをお願いしたい。また退会する理由としては、クラブの環境と文化が自分に合わない、期待と違っていた、時間と金銭的な理由、個人的な事情などがあります。新入会員を増やし、退会者を減らす為が一番大切なのは例会を充実させることです。例会こそ会員が繋がりを養う時間であり、そしてクラブも多様化していかないと成り立たなくなります。それは会員が多様化しているからで、会員の多様化に伴い、クラブも自然に多様化することが理想と思われ、例えばシニア会員を作るのもひとつ、お金と時間に余裕があるシニアを入れるのもあります。多種多様な会員種別を作ることによって、シニア会員の他にもウェブ会員というものを作って、家でも出張先でも参加できる。イートレス会員、会費のかなりの部分が食事代なので、そこを減らせば会費が減らせられるので、食事無しの例会もありかなということです。ナイトデイ会員、夜だけ参加する会員、昼だけ参加する会員といった、自分の生活スタイルに合わせて参加できるシステムを作っても良いのでは。またサポート会員は前からあり、所属クラブを持たずに各地のクラブに参加する。法人会員、1 法人の中で 3 人までは例会に出たり、活動に参加できるようにしたらどうか。ニート会員、つまり職業を持たない会員を入れるのも選択肢のひとつになるかもしれません。参加スタイルを多様化して時間と経費を削減することが大切であります。この辺の話になると、もう一つの DEI 推進小委員会の話とかぶってきますが、やはり会員増強にもクラブはもとより、会員 1 人 1 人の多様性、公平性、

包括性が求められるものであることを実感しました。

◎喜久生 明男 次期ガバナー補佐

まず、開会セッションの中で次期ガバナー補佐として全出席者に紹介されました。第 1 セッションでは会長エレクト/会長ノミネー/次期 AG/次期 CC は小ホールにてガバナーノミネーの河合信靖 (大垣中 RC) さんの自己紹介とロータリークラブへの参加経緯についてお話がありました。第 2 セッションでは戦略計画と研修学習・職業奉仕の合同分科会に参加しました。戦略計画部門では次期地区研修ファシリテーターの篠原一行さんよりお話があり、ロータリー活動を通し、個人から地区へ、地区から RI へ繋がって行き、と個人の職業奉仕から RI としては人道奉仕へと繋がる。ロータリーとは人作り、学び合う人生道場である。ロータリーとは親睦と学び、喜びと奉仕であり、人を豊かにすると述べられていました。研修・学習委員会について次期研修学習委員長の北川由幸 (高山 RC) さんから研修リーダーを中心にロータリーの知識を増やす研修をやることによってロータリーに対する理解を深め、入会 3 年未満の退会者を減らすことに繋がり、My Rotary の中には色々な知識を深めるサイトがありますので、活用して欲しいとの事でした。職業奉仕委員会について次期職業奉仕委員長の管内章夫 (久居 RC) さんよりお話があり、職業奉仕とは自分の仕事を天職と思い、相手を思い、世のため、人のために精一杯貢献する事に尽きるとの事でした。私の素朴なロータリーとは自分の仕事を一生懸命頑張って、それで、余裕ができれば何らかの社会貢献、社会奉仕をしたい。一人の力ではほんの僅かでも、それが 30 人集まれば 30 倍になるし、100 万人集まれば 100 万倍なれるというものです。現在のロータリーには RI からお下がり横文字が横行し、DEI だ integrity だ! と一生懸命になっています。どんな宗教も共存する日本、相手の宗教を排除せずに、受け入れている日本と日本人の伝統の中に



は今更、多様性だ、公平さだ、インクルージョンだと言っても、すでに日本人の中には存在しているのです。Integrityについても昔から正々堂々と勝負するという伝統が日本人には根付いています。日本人としての誇りを持って、皆で小さな力を合わせて大きな力に変えて、やり甲斐や楽しみを持ってロータリー活動をすれば、自ずと意思ある人は集まってくると思えました。自分の思いを確信した研修会だったと思えます。

◎高井 良祐 次期副会長

青少年育成の分科会に参加しました。青少年育成にはローターアクト・青少年交換・インターアクトの委員会があります。その中で青少年交換委員会についてお話しします。河人宗寿委員長が事細かく青少年プログラムについて説明してくださいました。このプログラムは、青少年の出発時の年齢を16歳から18歳未満を対象とした海外RCとの交換留学プログラムです。当クラブは1978-79年度から2012-13年度までの35年間、実績は受入学生38名、派遣学生36名です。ここ13年間、派遣も受入もありません。最初の留学生は65歳になられます。受入でホストされた会員、派遣された会員の方は青少年交換プログラムについて、よくご存知だと思います。2630地区では、以前多くの学生を受入、派遣をしていました。今年度、派遣男子1名、女子3名計4名（USA・AUS・SEW等）、受入は2024年度男子2名（AUS・NZL等）、2025年度女子1名（USA・EU等）の予定です。派遣学生の募集は10名程度ですが、選考されれば1年間10回程度のオリエンテーションでしっかりとした教育プログラムが用意されます。2630地区の高校に派遣募集のポスターを配布していますが、応募者が少ないように感じます。会員のお子様、お孫さん、親戚、お知り合い等募集中です。30年ほど前、オリエンテーションでロータリークラブが無くなっても、この素晴らしい青少年交換プログラムは無くならないだろうと、当時の地区委員長がお話されたことを思い出しま



した。多くの学生が留学経験をし、異国の学生を受入ホストする貴重な経験がクラブの活性化になれば素晴らしいと思います。

◎土屋 敏幸 地区公共イメージ委員



「公共イメージ」、「広報」、「広告宣伝」の違い



好ましい印象を抱いてもらう

▶公共のイメージは、私たちがロータリーについてどう語るか、また、どのくらい頻繁に語るかに左右されます。会員がロータリーについて伝えなければ、誤った情報に基づいてロータリーのイメージが形づくられ、そのせいでロータリーのイメージダウンやブランド力の低下につながってしまう可能性があります。

◎西田 健一 次期クラブ研修リーダー



『RIが考える職業奉仕とは』
職業奉仕はロータリークラブの奉仕部門の一つであり自分職業上のスキルを活かした奉仕活動は、個人が行うものであれ、クラブが行うものであれ、すべてが立派な「職業奉仕」の活動であります。職業奉仕主体は、個人、クラブの両方にあります。職業奉仕は日本が元祖といえます。

(1)継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく、職業を通じて社会に貢献するという意図をもって行う。

『 渋沢栄一の道徳的経済合一説 』

(2)経営者は利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的な利益を得る方法であるということを得ることです。「近江商人の三方よし」の考え方が大切です。2025～26年度のRI会長のマリオ・セザール・デ・カルマゴ氏の会長メッセージ『よいことのために手を取り合おう』ロータリービジョン声明は、私たちは世界で地域社会でそして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。

『職業奉仕と例会について』

(1)例会は重要な場ととらえ、有意義な開催を行う。

(2)例会で会員卓話を沢山行い、親睦を深めよう。

(3)ひと月の職業奉仕月刊に合わせて、クラブの職業奉仕委員長が関連する卓話をしよう。

以上、職業奉仕委員会としての発表を終わります。

◎藤村 勇太 会員

私は、入会3年未満の新人会員ということで、研修を受けてまいりました。冒頭、日本のロータリーの歩みのDVDを視聴し、その後、国際ロータリーについてとロータリーの基礎知識についての講義を受けて、最後に人生にロータリーをどう生かすかという質問に対して数人を指名されて、答えるという形式で進みました。研修を通して、繰返し語られたのは、国際ロータリーの位置付けは、あくまでも各クラブを補佐するものであり、本来は逆ピラミッドの形の組織であり、各クラブが主権を持って活動するのがロータリークラブのあるべき姿であるということでした。また、ロータリーにて用いられる奉仕は、普段使う奉仕とは少し意味合いが違い、仕え奉る、上下関係のある意味ではなく、広く社会に貢献するような意味合いで用いられるということも重要であると感じました講義の最後には、例会の重要性についてお話があり、伝統的な活動の意味合いと絡めてロータリーの活動の中心は例会であり、例会に出席することが奉仕の基本であると教わりました。最後の質問は、数人の方が指名され回答されてい



藤村会員の報告6ページへ続きます

◎山本 義樹 次期 R 財団委員長



2025-26年度 日本の目標

いよいよ2025-26年度の始まりまで3か月となりました。次年度の日本の目標を次の通りといたします。ロータリー会員の皆様には引き続き財団へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■年次基金	<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たり150ドル ・年次基金寄付ゼロクラブゼロの達成 ・Every Rotarian Every Year (年次基金への寄付)の推進 ・ポール・ハリス・ソサエティの推進(各地区10名増やす)
■ポリオプラス基金	<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たり30ドル(1,500ドル以上の寄付をしたクラブには、感謝状が贈られます。) ・ポリオプラス・ソサエティの推進(各地区50名増やす)
■恒久基金	<ul style="list-style-type: none"> ・冠名基金を各地区1件以上設立
■大口寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付の種類にかかわらず、1万ドル以上のご寄付を日本で100件 ・AKSを日本全体で10名増やす。
■DDFの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・DDFの有効活用(2025-26年度のDDFを使い切る前に、2020-21年度の繰越DDFを、2025-26年度分として寄贈可能(2026年6月30日まで有効)) ・DDFの20%をポリオプラスへ寄贈
■奉仕活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・世界ポリオデーの推進 ・補助金活動の促進 ・ロータリー平和フェローシップの推進

ましたが、難しい質問であり、回答される方も抽象的な回答が多くされていました。中には、いくつかのクラブを転々としながらの3年目の方が回答されていて、例会を通じて様々なロータリアンと出会うことで、自らの人生が肉付けされ周囲の関係者へと経験を繋げていく行動自体が奉仕へとつながり、人生そのものを楽しめるようにしていきたいと回答されていて、まさにその通りであると感じました。以上報告でした。



*出席委員会

会員 30 名、本日の出席 14 名です。

*ニボックス委員会

・会長 副会長 幹事

先日の地区研修・協議会お疲れ様でした。吉田会長エレクト、研修お疲れ様でした。本日の報告宜しくお願ひします。

14 名のご投函ありがとうございました。



<次例会の案内>

5月1日(木) 休会

8日(木) 第2175回例会 / 担当 インターアクト委員会
卓話 関商工高等学校

副校長 笠井 寛 様

工業科教諭 牛丸 憲一 様

テーマ

「関商工学校紹介とインターアクトの活動について」